

生物資源管理学科

1. 受賞

辻康介 (2016) 近畿作物・育種研究会第 181 回講演会優秀発表賞, 「辻康介, 浅山拓馬, 西田和真, 長谷川博, 原田英美子, オオカナダモ (*Egeria densa*) の Mn 集積性に及ぼす付着微生物の寄与」, 彦根市 (2016 年 5 月 28 日).

永川栄泰 (2017) 第 18 回「環境放射能」研究会発表奨励賞, 「永川栄泰, 上本道久, 黒沢高秀, 首藤光太郎, 長谷川博, 櫻井昇, 原田英美子. 水生植物の放射性 Cs 濃度調査及び安定同位体 Cs との挙動の比較」, つくば市 (2017 年 3 月 14 日).

吉田紘樹 (2016) 第 16 回糸状菌分子生物学コンファレンス学生ポスター賞, 「吉田紘樹, 後藤駿介, 田中千尋, 入江俊一, 鈴木一実, 泉津弘佑. トウモロコシごま葉枯病菌の物理的疎水面認識および付着器形成を制御する *Opy2* の解析」, 宇治市 (2016 年 11 月 18 日～11 月 19 日).

2. 著書

Hokura, A. and E. Harada (2017) Chapter 6. Synchrotron radiation X-ray analysis of metal accumulating plants: in Metallomics -Recent Analytical Techniques and Applications-, eds. Ogura Y. and T. Hirata, p.125-145, Springer, Japan.

岩間憲治 (2017) 地域共生論 : 300 人規模のアクティブラーニング. 第 8 章 (2) 「里山と農業」. 滋賀県立大学地域共生論運営委員会編, p.101-103, サンライズ出版, 滋賀.

皆川明子 (2017) 地域環境水利学. 第 9 章「農業水利システムにおける生態系の保全」, 渡邊裕紹・堀野治彦・中村公人編著, p.159-185, 朝倉書店, 東京.

3. 論文

Kosugi, A., C. Nishizawa, A. Kawabe and E. Harada (2016) Zinc accumulation and vegetation ecology in allotetraploid *Arabidopsis kamchatica* ssp. *kawasakiana*. Plant Biotechnology, 33: 33-37.

辻康介, 浅山拓馬, 西田和真, 原田英美子 (2016) 琵琶湖水圏における水生植物の重金属集積. 海洋化

学研究 29: 24-28.

小杉亜希, 高倉耕一, 野間直彦, 河邊昭, 原田英美子 (2016) 絶滅危惧種タチスズシロソウ (*Arabidopsis kamchatica* ssp. *kawasakiana*) 個体群の個体数推定. 地域自然史と保全 38: 51-60.

Harada, E., Y. Nagakawa and A. Hokura (2016) (2016) Accumulation and distribution of cesium in *Egeria densa*, a submerged plant. SPring-8 /SACLA Research Frontiers 2015: 96-97.

原田英美子 (2016) トップダウン型研究不正の手法解明—捏造・アカハラ研究室でいかに生き残るか? 東北大学金属材料研究所の例から学ぶ—. 金属 86: 91-102.

畑直樹 (2017) ホープが語る! 未来のハイドロポニックス 地下「環境」に還る. ハイドロポニックス 30: 42-43.

Suchewaboripont, V., M. Ando, S. Yoshitake, Y. Y. Iimura, M. Hirota and T. Ohtsuka (2017) Spatial upscaling of soil respiration under a complex canopy structure in an old-growth deciduous forest, central Japan. Forests 8: 36. doi:10.3390/f8020036.

Toyokawa, C., M. Shobu, R. Tsukamoto, S. Okamura, Y. Honda, H. Kamitsuji, K. Izumitsu, K. Suzuki and T. Irie (2016) Effects of overexpression of *PKAc* genes on expressions of lignin-modifying enzymes by *Pleurotus ostreatus*. Bioscience, Biotechnology and Biochemistry 80: 1759-1767.

Nakazawa, T., M. Tsuzuki, T. Irie, M. Sakamoto and Y. Honda (2016) Marker recycling via 5-fluoroorotic acid and 5-fluorocytosine counter-selection in the white-rot agaricomycete *Pleurotus ostreatus*. Fungal Biology 120: 1146-1155.

Matsunaga, Y., M. Ando, K. Izumitsu, K. Suzuki, Y. Honda and T. Irie (2017) A development and an improvement of selectable markers in *Pleurotus ostreatus* transformation. Journal of Microbiological Methods 134: 27-29.

中野光議, 岩間憲治 (2016) 滋賀県彦根市の水路における魚類の種相と分布—地理情報システムを導入した大学実習の事例—. 地域自然史と保全

- 38: 121-128.
- Awala, S. K., K. Yamane, Y. Izumi, Y. Fujioka, Y. Watanabe, K. C. Wada, Y. Kawato, O. D. Mwandemele and M. Iijima (2016) Field evaluation of mixed-seedlings with rice to alleviate flood stress for semi-arid cereals. *European Journal of Agronomy* 80: 105-112.
- Izumi, Y., Y. Okazaki, K. Yamane and M. Iijima Iijima (2016) Evaluation of the resistance to "multiple environmental stress" of *Oryza sativa*, *O. glaberrima* and their interspecific progenies. - Effect of drought and re-watering on the growth and physiological parameters of rice cultivars. - *Journal of Crop Research* 61: 7-12.
- Masuda, K. (2016) Optimization model for mitigating global warming at the farm scale: an application to Japanese rice farms. *Sustainability* 8: 593. doi:10.3390/su8070593.
- Masuda, K. (2016) Measuring eco-efficiency of wheat production in Japan: a combined application of life cycle assessment and data envelopment analysis. *Journal of Cleaner Production* 126: 373-381.
- 大久保卓也, 東善広 (2016) 過去 35 年間の琵琶湖の水質変化と流域環境の変化. *海洋化学研究* 29: 2-16.
- 大久保卓也, 佐藤祐一, 東善広 (2016) 琵琶湖の水質保全と非特定汚染源対策. *環境技術* 45: 370-376.
- 石崎大介, 亀甲武志, 藤岡康弘, 水野敏明, 永田貴丸, 淀太我, 大久保卓也 (2016) 魚類の生息環境からみた琵琶湖と流入河川とのつながりの重要性. *魚類学雑誌* 63: 89-106.
- 須戸幹 (2016) 水田環境における農薬動態モニタリング. *農薬環境科学研究*, 24: 51-59.
- 杉浦省三 (2016) 魚類栄養学の歴史を辿る. *日本水産学会誌* 82: 374-381.
- Watanabe, T., N. Tanemura and S. Sugiura (2016) Effects of *in vitro* enzymatic digestion of rapeseed meal, soybean meal, macrophyte meal, and algal meal on *in vivo* digestibilities of protein and minerals evaluated using common carp *Cyprinus carpio*. *Aquaculture Science* 64: 215-222.
- Nakajima, M. and S. Sugiura (2016) Effects of dietary NaCl on the *in vivo* apparent absorption of dietary nutrients determined in rainbow trout (*Oncorhynchus mykiss*). *Aquaculture* 460: 1-7.
- Ishikawa, K. and S. Sugiura (2016) Combined effects of sodium chloride, citric acid, and autoclave conditions on apparent *in vivo* digestibility of rapeseed meal and macrophyte meal determined in common carp *Cyprinus carpio*. *Fisheries Science* 82: 931-939.
- Sugiura, S. (2016) When was B1, the first vitamin, discovered?: An alternative perspective. *Journal of Nutritional Science and Vitaminology* 62: 372-374.
- Nakajima, M. and S. Sugiura (2017) Effects of dietary NaCl on intestinal absorption of protein, organic matter, phosphorus, calcium, and selected trace minerals in common carp (*Cyprinus carpio*). *Aquaculture Science* 65: 11-18.
- 山崎一夫, 高倉耕一, 今井長兵衛 (2016) 大阪港湾部におけるアカハネオンプバッタの侵入時期について. *日本環境動物昆虫学会誌* 27: 17-20.
- Nishida, S., K. Hashimoto, M. Kanaoka, K.-I. Takakura and T. Nishida (2016) Variation in the strength of reproductive interference from an alien congener to a native species in *Taraxacum*. *Journal of Plant Research* 130: 125-134.
- Takahashi, Y., K.-I. Takakura and M. Kawata (2016) Spatial distribution of flower color induced by interspecific sexual interaction. *PLoS ONE* 11: e0164381.
- Noriyuki, S., Y. Suzuki-Ohno and K.-I. Takakura Takakura (2016) Variation of clutch size and trophic egg proportion in a ladybird with and without male-killing bacterial infection. *Evolutionary Ecology* 30: 1081-1095.
- 高倉耕一 (2016) 雑草防除用生物資材としてのオカカダンゴムシ *Armadillidium vulgare* の有効性. *日本環境動物昆虫学会誌* 27: 81-87.

Ichihara, M., A. Yamamoto, N. Kakutani, M. Sudo and K.-I. Takakura (2017) A Bayesian approach for estimating hexabromocyclododecane (HBCD) diastereomer compositions in water using data below limit of quantification. *Environmental Science and Pollution Research* 24: 2667. doi:10.1007/s11356-016-7990-5.

4. 作品

(なし)

5. 報告書, その他著作, 一般向け記事

1) 科研費他外部研究費による研究の成果報告書

飯村康夫 (2016) 科学研究費補助金若手研究 (B) 平成 27 ~ 28 年度研究成果報告書. 土壌炭素の温暖化応答に及ぼすプライミング効果の定量的評価.
入江俊一 (2016) 科学研究費補助金基盤研究 (C) 平成 27 ~ 29 年研究成果報告書. プロテインキナーゼ A 触媒サブユニット遺伝子過剰発現によるリグニン分解系誘導の機構.

2) 受託研究等の報告書

平山琢二 (2016) 牛肉の各部位に含まれる機能性成分に与える品種の影響について. 食肉に関する助成研究調査成果報告書: 377-382.

入江俊一, 清水明史, 杉浦省三 (2016) リグノセルロース資源を用いたバイオリファイナーリーのためのカスタム白色腐朽菌株デザイン. 大型研究プロジェクト等推進研究成果報告書.

和崎淳, 俵谷圭太郎, 清水顕史 (2016) イネのリン酸吸収と利用を改善する遺伝子の同定と DNA マーカーの開発. ゲノム情報を活用した農畜産物の次世代生産基盤技術の開発プロジェクト 平成 28 年度試験研究成績書: 21-29.

須戸幹 (2016) 残留実態が明らかでない農薬成分の湖沼 (琵琶湖) での残留リスク評価および発生源と浄水過程におけるリスク軽減対策. 河川整備基金助成事業 2014 年 ~ 2016 年.

3) ハンドブック, 辞典, 図鑑などへの執筆

(なし)

4) 新聞, 一般向け雑誌等への解説記事など

原田英美子 (2016) 白井光太郎著「獨逸高山リイゼンゲビルゲ植物採集紀行」に寄せて. 日独学術交流雑記帳, 日本フンボルト協会 (2016 年 8 月 10 日).

畑直樹 (2016) ニュースレター, 養液栽培研究会編 56: 15-16.

増田佳昭 (2016) 連載「点検・自己改革」. 日本農業新聞 (2016 年 5 月 13 日, 5 月 27 日, 6 月 10 日, 6 月 24 日, 7 月 8 日, 7 月 27 日, 8 月 5 日, 8 月 19 日, 9 月 2 日, 9 月 16 日, 9 月 30 日, 10 月 14 日, 10 月 28 日, 11 月 11 日, 11 月 25 日, 12 月 5 日, 12 月 23 日).

増田佳昭 (2016) 今こそ JA の底力 災い転じて福となす改革になるように. 家の光 2017 年 1 月号: 134-135.

高倉耕一 (2016) 在来昆虫類が駆動する繁殖干渉と外来種問題. 昆虫と自然 51: 8-11 (2016 年 12 月 2 日).

6. 学会等への発表

辻康介, 浅山拓馬, 西田和真, 長谷川博, 原田英美子 (2016) オオカナダモ (*Egeria densa*) の Mn 集積性に及ぼす付着微生物の寄与. 近畿作物・育種研究会第 181 回例会, 彦根市 (2016 年 5 月 28 日).

原田英美子 (2016) 研究不正ラボでは何が起きているか—事例に学ぶ—. 日本科学者会議第 21 回総合学術研究集会, 京都市 (2016 年 9 月 2 日 ~ 9 月 4 日).

原田英美子, 小杉亜希, 西澤千晶, 高倉耕一, 野間直彦, 河邊昭 (2016) 絶滅危惧種タチスズシロソウ (*Arabidopsis kamchatica* ssp. *kawasakiana*) の重金属集積性と植生調査. 日本植物学会第 80 回大会, 宜野湾市 (2016 年 9 月 16 日 ~ 9 月 19 日).

辻康介, 浅山拓馬, 西田和真, 長谷川博, 原田英美子 (2016) オオカナダモ (*Egeria densa*) 付着細菌のマンガン酸化能. 日本植物学会第 80 回大会, 宜野湾市 (2016 年 9 月 16 日 ~ 9 月 19 日).

原田英美子, 浦部美佐子, 西田隆義, 丸尾雅啓 (2016) 研究不正防止に向けた新規教育プログラムの構築—滋賀県立大学の事例—. 第 39 回日本分子生物学会, 横浜市 (2016 年 11 月 30 日 ~ 12

- 月 2 日).
- 小杉亜希, 西澤千晶, 河邊昭, 原田英美子 (2016) 琵琶湖湖岸における絶滅危惧種タチスズシロソウの金属集積性および耐性. 日本水環境学会関西支部第 6 回研究発表会, 大阪市 (2016 年 12 月 2 日).
- Harada, E. (2017) Metal accumulation in aquatic plants -utilization of biomass in Lake Biwa basin-. The 2nd UST-USP symposium, Manila (2017 年 2 月 28 日).
- 永川榮泰, 上本道久, 黒沢高秀, 首藤光太郎, 長谷川博, 櫻井昇, 原田英美子 (2017) 水生植物の放射性 Cs 濃度調査及び安定同位体 Cs との挙動の比較. 第 18 回「環境放射能」研究会, つくば市 (2017 年 3 月 14 日).
- 原田英美子, 浦部美佐子, 西田隆義, 丸尾雅啓 (2016) 研究不正防止に向けた新規教育プログラムの構築. 第 58 回日本植物生理学会, 鹿児島市 (2017 年 3 月 16 日～3 月 18 日).
- 原田英美子, 辻康介, 沢田美由紀, 長谷川博 (2016) 沈水植物オオカナダモ (*Egeria densa*) のマンガン集積には付着微生物が関与している. 日本農芸化学会 2017 年度大会, 京都市 (2017 年 3 月 17 日～3 月 20 日).
- 伊達修一, 松浦健人, 畑直樹, 寺林敏 (2016) 人工光型植物工場でのゴマ幼植物体の栽培における日長および温度条件が葉の褐変の発生に及ぼす影響. 園芸学会平成 28 年度秋期大会, 名古屋市 (2016 年 9 月 10 日～9 月 11 日).
- Yamanaka, M., T. Hirayama, Y. Handa, Y. Wakai, K. Katoh, K. Suzuki and T. Oikawa (2016) A study of behavioral characteristics of a dugong under long term exhibiting circumstances. The 23rd Pacific Science Congress, Taipei (2016 年 6 月 13 日～6 月 17 日).
- Ikejiri, A., T. Hirayama and T. Oikawa (2016) Effect of heat stress on milk production traits of Holstein in Okinawa. The 17th AAAP Animal Science Congress, 福岡市 (2016 年 10 月 22 日～10 月 25 日).
- Yamanaka, M., T. Hirayama, H. Hayashi, K. Katoh, S. G. Roh, T. Oikawa and K. Suzuki (2016) Influence of a sweetener or a seaweed addition in Japanese deer meat to sensory research. The 17th AAAP Animal Science Congress, 福岡市 (2016 年 10 月 22 日～10 月 25 日).
- 平山琢二, 山中麻帆, 奥田美紗季, 半田由佳理, 若林郁夫, 若井嘉人, 及川卓郎 (2016) 飼育展示下ジュゴンの給与飼料と採食行動について. 第 22 回「野生生物と社会」学会大会, 府中市 (2016 年 11 月 4 日～11 月 6 日).
- 山中麻帆, 平山琢二, 林英明, 廬尚建, 加藤和雄, 鈴木啓一, 及川卓郎 (2017) 捕獲鹿肉への甘味料や海藻の添加が食味へ与える影響. 日本畜産学会第 122 回大会, 神戸市 (2017 年 3 月 26 日～3 月 30 日).
- 飯村康夫, 高田原広 (2016) セルロース添加に伴う土壌有機物分解反応と温度環境の関連性. 日本土壌肥料学会 2016 年度佐賀大会, 佐賀市 (2016 年 9 月 20 日～9 月 22 日).
- 木田森丸, 田邊舞, 友常満利, 飯村康夫, 金城和俊, 近藤美由紀, P. Sasitorn, 大塚俊之, 藤嶽暢英 (2016) マングローブ林内土壌への海水塩によるフミン酸の選択的蓄積. 日本土壌肥料学会 2016 年度佐賀大会, 佐賀市 (2016 年 9 月 20 日～9 月 22 日).
- Nakatsubo, T., M. Hirota, A. Kishimoto, N. Oura, S. Yonemura, N. Fujitake, H. Sonoda, Y. Iimura and M. Uchida (2016) Carbon dynamics of moss tundra in the high arctic, Svalbard. Polar Ecology Conference 2016, České Budějovice (2016 年 9 月 21 日～9 月 21 日).
- 飯村康夫 (2017) MAFES「森林の炭素循環ミステリー: 土から考えてみた」. 第 64 回日本生態学会大会, 東京都新宿区 (2016 年 3 月 14 日～3 月 18 日).
- 左近静香, 阪本鷹行, 泉津弘佑, 鈴木一実, 入江俊一 (2016) *Phanerochaete chrysosporium* における CaM 相互作用性アルドケト還元酵素. 日本菌学会第 60 回大会, 京都市 (2016 年 9 月 15 日～9 月 17 日).
- 井本篤志, 栗山和也, 左近静香, 阪本鷹行, 泉津弘佑, 鈴木一実, 入江俊一 (2017) *Phanerochaete chrysosporium* における aldo-keto 還元酵素 AKR1. 日本農芸化学会 2017 年度大会, 京都市 (2017 年 3 月 17 日～3 月 20 日).

藤井佳祐, 岩間憲治, 佐竹祐亮 (2016) 外来魚の肥料としての有効性について. 平成 28 年度農業農村工学会全国大会, 仙台市 (2016 年 8 月 30 日～9 月 1 日).

西垣敏治, 岩間憲治 (2016) 屋上緑化における省力・節水型給水システムの開発. 平成 28 年度農業農村工学会全国大会, 仙台市 (2016 年 8 月 30 日～9 月 1 日).

梅田友紀, 岩間憲治, 西脇繁, 青山浩之 (2016) 人工石灰質資材からの流出水の影響. 平成 28 年度農業農村工学会全国大会, 仙台市 (2016 年 8 月 30 日～9 月 1 日).

森一馬, 泉泰弘, 山根浩二, 飯嶋盛雄 (2016) イネ - トウジンビエ混作栽培に適したイネ品種の選抜: トウジンビエと混作した陸稲 NERICA 品種の耐乾性及び収量性の評価. 近畿作物・育種研究会第 181 回例会, 彦根市 (2016 年 5 月 28 日).

岡市真治, 泉泰弘, S. K. Awala, 山根浩二, 飯嶋盛雄 (2016) 水ストレス条件下における作物の生育と水分生理に及ぼす混作の効果. 日本作物学会第 242 回講演会, 大津市 (2016 年 9 月 10 日～9 月 12 日).

渡邊芳倫, F. Itanna, 泉泰弘, 藤岡悠一郎, S. K. Awala, 飯嶋盛雄 (2016) ナミビア北中部水田におけるきゅう肥と化肥による稲への施肥効果. 日本土壤肥料学会 2016 年度佐賀大会, 佐賀市 (2016 年 9 月 20 日～9 月 22 日).

渡邊芳倫, F. Itanna, 泉泰弘, S. K. Awala, 飯嶋盛雄 (2016) ナミビア国におけるイネ - トウジンビエ混作栽培: 作物の水源と生理に及ぼす湿害ストレスの影響. 日本熱帯農業学会第 120 回講演会, 鹿児島市 (2016 年 10 月 8 日～10 月 9 日).

土屋賢太, 庄司浩一, 渡邊芳倫, 廣岡義博, 泉泰弘, 宇都宮鑑彦, S. K. Awala, 飯嶋盛雄 (2017) ナミビア季節湿地帯における畝立ての方法がササゲの生育・収量に与える影響. 日本農作業学会第 52 回講演会, さいたま市 (2017 年 3 月 27 日～3 月 28 日).

広瀬優樹, 松永有佳理, 田中千尋, 入江俊一, 鈴木一実, 泉津弘佑 (2016) 外生菌根菌ホンシメジにおけるランダム挿入突然変異法の確立. 第 16 回糸状菌分子生物学コンファレンス, 宇治市 (2016 年 11 月 18 日～11 月 19 日).

門岡千尋, 泉津弘佑, 奥津果優, 吉崎由美子, 高峯

和則, 後藤正利, 玉置尚徳, 二神泰基 (2016) 白麹菌 *Aspergillus kawachii* における推定クエン酸輸送体 CtpA と YhmA の機能解析. 第 16 回糸状菌分子生物学コンファレンス, 宇治市 (2016 年 11 月 17 日～11 月 18 日).

姑射誠佳, 渡邊彩奈, 横山綾, 入江俊一, 鈴木一実, 泉津弘佑 (2016) トウモロコシごま葉枯病菌における全 10 種のホメオボックス遺伝子の機能解析. 第 16 回糸状菌分子生物学コンファレンス, 宇治市 (2016 年 11 月 18 日～11 月 19 日).

松原佳耶, 吉田裕史, 泉津弘佑, 宮川恒, 田中千尋 (2016) 抗真菌性化合物 Tolnifanide の選択毒性には GGase-I の Cys²²¹ が関与する. 第 16 回糸状菌分子生物学コンファレンス, 宇治市 (2016 年 11 月 18 日～11 月 19 日).

奥谷美季, 田中千尋, 入江俊一, 鈴木一実, 泉津弘佑 (2016) トウモロコシごま葉枯病菌の付着器侵入に関連するテトラスパニン遺伝子 *PlsI* の機能解析. 第 16 回糸状菌分子生物学コンファレンス, 宇治市 (2016 年 11 月 18 日～11 月 19 日).

重吉沙衣, 入江俊一, 鈴木一実, 宮川恒, 田中千尋, 泉津弘佑 (2016) 全ゲノム解析による抗真菌性化合物 Tolnifanide 耐性遺伝子の同定. 第 16 回糸状菌分子生物学コンファレンス, 宇治市 (2016 年 11 月 18 日～11 月 19 日).

山田淳司, 吉田裕史, 泉津弘佑, 田中千尋 (2016) トウモロコシごま葉枯病菌の高浸透圧応答シグナル伝達における Skn7 の機能解析. 第 16 回糸状菌分子生物学コンファレンス, 宇治市 (2016 年 11 月 18 日～11 月 19 日).

吉田紘樹, 後藤駿介, 田中千尋, 入江俊一, 鈴木一実, 泉津弘佑 (2016) トウモロコシごま葉枯病菌の物理的疎水面認識および付着器形成を制御する *Opy2* の解析. 第 16 回糸状菌分子生物学コンファレンス, 宇治市 (2016 年 11 月 18 日～11 月 19 日).

馬場雅貴, 宮本光司, 肥田嘉文, 増田清敬, 寄本明 (2017) 中学生の体の柔軟性および体の痛みの自覚症状とスポーツ経験の長さ. 京都滋賀体育学会第 146 回大会, 京都市 (2017 年 3 月 5 日).

皆川明子, 饗庭俊, 吉田一基, 山本達也 (2016) 魚溜工と合流枿における出水時の土砂洗掘の違い. 平成 28 年度農業農村工学会全国大会, 仙台市 (2016 年 8 月 30 日～9 月 1 日).

山本達也, 皆川明子, 西田一也 (2016) 3 面張りコ

ンクリート水路の深みが持つ出水時の魚類の待避場としての効果．平成 28 年度農業農村工学会全国大会，仙台市（2016 年 8 月 30 日～9 月 1 日）．
皆川明子（2016）魚のゆりかご水田の取り組みとその効果，応用生態工学会第 20 回大会，東京都文京区（2016 年 9 月 2 日～9 月 5 日）．
大久保卓也，境宏貴，中田宇夢，石崎大介，東善広（2017）琵琶湖に流入する河川・水路の魚類相と環境条件の関係（春季調査結果）．第 51 回水環境学会年会，熊本市（2017 年 3 月 15 日～3 月 17 日）．
小梶裕之，山崎将紀，清水顕史（2016）日本イネ品種群を用いたリン欠乏応答性根伸長形質に関わる QTL の探索．近畿作物・育種研究会第 182 回例会，紀の川市（2016 年 11 月 26 日）．
工藤真帆，小梶裕之，平林秀介，清水顕史（2016）野生イネ *Oryza barthii* 染色体断片導入システムを用いた低リン耐性 QTL の探索．近畿作物・育種研究会第 182 回例会，紀の川市（2016 年 11 月 26 日）．
藤田楓加，橋本康史，山崎将紀，清水顕史（2017）無肥料水田で栽培したイネ穂数の遺伝解析．日本育種学会第 131 回講演会，名古屋市（2017 年 3 月 29 日～3 月 30 日）．
久保明日香，中田俊芳，鎌田素之，須戸幹（2016）近年出荷量が増加している農業などの水道水および水道水源等の実態調査．第 51 回水環境学会年会，熊本市（2017 年 3 月 15 日～3 月 17 日）．
土屋弥月，須戸幹（2016）水田施用農薬の土壤吸着性に影響する環境要因の検討．第 51 回水環境学会年会，熊本市（2017 年 3 月 15 日～3 月 17 日）．
小幡善也，横山綾，泉津弘佑，入江俊一，鈴木一実（2016）ウリ類炭疽病菌におけるホメオボックス転写因子 CoHox2 の機能解析．平成 28 年度日本植物病理学会関西支部会，静岡市（2016 年 9 月 29 日～9 月 30 日）．
森井清仁，中野光議，高倉耕一（2016）スジシマドジョウ 2 種の同時・同所的繁殖とその再生産への影響．2016 年度日本魚類学会年会，岐阜市（2016 年 9 月 23 日～9 月 26 日）．
岸茂樹，高倉耕一（2016）集団間交配による環境依存性決定から遺伝的性決定への進化の可能性．第 32 回個体群生態学会大会，札幌市（2016 年 11 月 3 日～11 月 5 日）．

森井清仁，中野光議，高倉耕一（2016）近縁スジシマドジョウの繁殖地への侵入消長と再生産消長の不一致．第 32 回個体群生態学会大会，札幌市（2016 年 11 月 3 日～11 月 5 日）．
遠藤耕平，高倉耕一（2016）ホトケノザの閉鎖花と花粉媒介者—訪花頻度は花の違いで変化する？—．第 28 回日本環境動物昆虫学会年次大会，上田市（2016 年 11 月 11 日～11 月 13 日）．
古川真莉子，高倉耕一，中西康介，沢田裕一，西田隆義（2016）イラガの化性の変化は異なる繁殖集団によるものか．第 28 回日本環境動物昆虫学会年次大会，上田市（2016 年 11 月 11 日～11 月 13 日）．
北野大輔，山上繁政，本間淳，高倉耕一（2016）検疫害虫ミバエ類の寄主植物は推定できるか？—その技術開発と課題．第 28 回日本環境動物昆虫学会年次大会，上田市（2016 年 11 月 11 日～11 月 13 日）．
森井清仁，中野光議，岩間憲治，高倉耕一（2016）なぜカワリヌマエビ属は農業用水路の上流部に多いのか～スジエビ・外来カワリヌマエビ属の酸欠耐性～．第 28 回日本環境動物昆虫学会年次大会，上田市（2016 年 11 月 11 日～11 月 13 日）．
森井清仁，中野光議，高倉耕一（2016）環境変化により同所的繁殖を強いられた近縁シマドジョウ属 2 種の再生産．第 28 回日本環境動物昆虫学会年次大会，上田市（2016 年 11 月 11 日～11 月 13 日）．
中西康介，古川真莉子，高倉耕一，西田隆義（2016）同所的に生息するトノサマガエル属 2 種の繁殖フェノロジーと幼生の発生状況．第 28 回日本環境動物昆虫学会年次大会，上田市（2016 年 11 月 11 日～11 月 13 日）．
高倉耕一，中西康介，古川真莉子，西田隆義（2016）トノサマガエル属 2 種の種判別のための核 DNA マーカーの開発．第 28 回日本環境動物昆虫学会年次大会，上田市（2016 年 11 月 11 日～11 月 13 日）．
山上繁政，北野大輔，藤井暢之，本間淳，西田隆義，沢田裕一，高倉耕一（2016）*Bactrocera* 属ミバエ類のモデル生物としてのミスジミバエの基礎生態 I．第 28 回日本環境動物昆虫学会年次大会，上田市（2016 年 11 月 11 日～11 月 13 日）．
佐竹祐亮，高倉耕一（2016）オオクチバスに対する

在来魚類の捕食回避行動の違い．日本動物行動学会第 35 回大会，新潟市 (2016 年 11 月 11 日～11 月 13 日)．

古川真莉子，高倉耕一，中西康介，沢田裕一，西田隆義 (2017) イラガの化性の減少を遺伝的要因からさぐる．第 64 回日本生態学会大会，東京都新宿区 (2017 年 3 月 14 日～3 月 18 日)．

森井清仁，中野光議，高倉耕一 (2017) 近縁スジシマドジョウの同所的繁殖と繁殖干渉のリスク．第 64 回日本生態学会大会，東京都新宿区 (2017 年 3 月 14 日～3 月 18 日)．

中西康介，古川真莉子，高倉耕一，西田隆義 (2017) トノサマガエルとナゴヤダルマガエルの野外個体群における繁殖実態と種間相互作用．第 64 回日本生態学会大会，東京都新宿区 (2017 年 3 月 14 日～3 月 18 日)．

高倉耕一 (2017) ホトケノザの閉鎖花を発現させる至近要因としての近縁外来種ヒメオドリコソウ．第 64 回日本生態学会大会，東京都新宿区 (2017 年 3 月 14 日～3 月 18 日)．

山上繁政，Sujiono，西田隆義，沢田裕一，高倉耕一 (2017) インドネシアに同所的に生息するミカンコミバエ種群 2 種の産卵選好性．第 61 回日本応用動物昆虫学会大会，小金井市 (2017 年 3 月 27 日～3 月 29 日)．

上町達也，小室安津実，杉本論紀 (2016) クロロフィル蛍光分析によるガクアジサイおよびヤマアジサイの強光耐性の評価．園芸学会平成 28 年度秋期大会，名古屋市 (2016 年 9 月 10 日～9 月 11 日)．

小倉隼人，濱本伊織，肥田嘉文，上町達也 (2017) 野菜の生育ステージにおける採取時期と変異原性との関係．第 51 回日本水環境学会年会，熊本市 (2017 年 3 月 15 日～3 月 17 日)．

7. 研究会等，講演会，特別講義での発表

1) 研究会等における発表

原田英美子 (2016) なぜ研究不正はなくなるのか．滋賀県立大学環境科学部・環境科学研究科 研究倫理教育セミナー第 1 回，滋賀県立大学 (2016 年 5 月 25 日)．

小杉亜希，原田英美子 (2016) 絶滅危惧種タチスズシロソウの重金属集積性と個体数調査．滋賀自然環境研究会第 26 回研究発表会．滋賀県立大学 (2016 年 7 月 30 日)．

辻康介，原田英美子 (2016) オオカナダモのマンガン集積と付着微生物の寄与．滋賀自然環境研究会第 26 回研究発表会．滋賀県立大学 (2016 年 7 月 30 日)．

目片友貴，辻康介，原田英美子 (2016) 琵琶湖水圏に生育するオオカナダモ，コカナダモおよびクロモの DNA バーコーディング法を用いた種の判別法の確立．第 17 回いしでらまちづくり勉強会，下石寺エコ民家 3 号館 (2016 年 11 月 27 日)．

沢田美由紀，辻康介，原田英美子 (2016) オオカナダモ (*Egeria densa*) 付着性マンガン酸化細菌の有効利用．第 17 回いしでらまちづくり勉強会，下石寺エコ民家 3 号館 (2016 年 11 月 27 日)．

辻康介，原田英美子 (2016) オオカナダモ (*Egeria densa*) に付着する細菌のマンガン (Mn) 酸化．第 17 回いしでらまちづくり勉強会，下石寺エコ民家 3 号館 (2016 年 11 月 27 日)．

増田清敬 (2016) 環境こだわり米は環境効率を向上させるか？．環境科学セミナー，滋賀県立大学 (2016 年 11 月 25 日)．

皆川明子 (2016) 農業水利システムと魚類一条里水田と用廃水路－．フィールドシンポジウム in 櫛田川，櫛田川・津商工会議所 (2016 年 7 月 25 日)．

大久保卓也，境宏貴，中田宇夢，石崎大介，東善広 (2016) 琵琶湖湖辺の農業排水路における魚類相と環境条件の関係．第 7 回 琵琶湖地域の水田生物研究会，琵琶湖博物館ホール (2016 年 12 月 18 日)．

清水顕史 (2017) イネのリンのリサイクリングに関わる有用遺伝子の同定と DNA マーカーの開発 (LCT0006)．次世代ゲノムプロジェクト，東京都文京区 (2017 年 1 月 11 日)．

小幡善也，横山綾，泉津弘佑，入江俊一，鈴木一実 (2016) ウリ類炭疽病菌においてホメオボックス転写因子 CoHox2 は分生胞子形成および剛毛形成に関与する．平成 28 年度植物感染生理談話会，シーパル須磨 (2016 年 8 月 10 日～8 月 12 日)．

横山綾，泉津弘佑，入江俊一，鈴木一実 (2016) ウリ類炭疽病菌におけるホメオボックス転写因子と病原性との関連．平成 28 年度植物感染生理談話会，シーパル須磨 (2016 年 8 月 10 日～8 月 12 日)．

2) 講演会

Hirayama, T. (2016) TMR application and

resent research progress in Japanese black cattle, TMR Symposium on Meat Quality Rights of Cattle, Special lecture, Sunchon National University (2016年11月18日).

皆川明子 (2016) 都市化地域での水路の部分改修が水路システムに及ぼす影響. 平成 28 年度地域用水対策協議会総会 野洲川沿岸地区, 野洲川土地改良区 (2016年8月26日).

皆川明子 (2016) 歴史と生きものにぎわいにあふれる朝見の今～松阪市朝見地区の調査から～. 平成 28 年度 MieMu セミナー, 三重県総合博物館 (2017年1月29日).

大久保卓也 (2016) 農業の琵琶湖水質・生態系への影響. 第 242 回日本作物学会講演会, 日本作物学会 (2016年9月10日).

大久保卓也 (2016) 琵琶湖における水質・水環境研究の方向性. 公開シンポジウム「琵琶湖保全の取り組みと今後の方向性」, 日本水環境学会ノンポイント汚染研究委員会 (2016年8月29日).

大久保卓也 (2017) 河川・水路における魚類分布と環境条件の関係. 琵琶湖環境研究推進機構研究発表会, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター (2017年2月24日).

清水顕史 (2016) 連続無施肥水田を利用した, イネ収量形質の全ゲノム関連解析 (シンポジウム講演『熱帯アジア地域の問題土壌と農業生産』), 日本土壌肥料学会 2016 年度佐賀大会, 佐賀大学 (2016年9月22日).

高倉耕一 (2016) 繁殖干渉からみた外来雑草の侵入と分布拡大. 京都大学農学部特別講演, 京都大学 (2016年10月20日).

3) 授業

原田英美子 (2016) 琵琶湖の水生植物の隠された能力をしらべよう. 日本学術振興会 ひらめき☆ときめきサイエンス受託事業, 滋賀県立大学 (2016年7月24日).

飯村康夫 (2016) Soil Science. 日本 - ノルウェー共同教育プログラム (JANATEX), 国立極地研究所 (2016年5月20日).

飯村康夫 (2016) 土と地球温暖化?. 高大連携事業, 滋賀県立大学 (2016年8月2日).

入江俊一 (2016) DNA の切断, 結合, 大腸菌の形質転換. 滋賀県立大学・虎姫高等学校高大連携事業,

滋賀県立大学 (2016年8月22日).

増田清敬 (2016) 滋賀県環境こだわり農産物と 6 次産業化. 八日市南高校専門教科講義, 八日市南高校 (2016年10月4日).

皆川明子 (2016) 生きものを育む農業を考える. 平成 28 年度滋賀県立大学社会人専門講座, 滋賀県立大学 (2016年11月21日).

清水顕史 (2016) 京都大学集中講義「バイオインフォマティクス」, 京都大学 (2016年9月14日～9月16日).

須戸幹 (2016) 土壌中の交換性陽イオンの測定. 河瀬高校高大連携事業, 滋賀県立大学 (2016年5月6日, 8月5日).

須戸幹 (2016) 琵琶湖と水質. 城西小学校総合学習, 彦根市立城西小学校 (2016年5月20日).

須戸幹 (2016) 水質残留農薬の測定方法. 木津高校, 滋賀県立大学 (2016年8月8日).

上町達也 (2016) 野菜の遺伝子を取り出してみよう. 岐阜県立大垣東高校理科科高大連携講座, 滋賀県立大学 (2016年7月29日).

8. 展覧会等

(なし)

9. 競争的研究資金の導入

1) 本学特別研究

泉津弘佑. 逆遺伝学的手法を用いた外生菌根共生菌ホンシメジの共生メカニズムの解析. 特別研究, 平成 27～28 年度, 90 万円.

大久保卓也, 須戸幹, 皆川明子. 水田地域の生態系保全技術の指針づくり. 特別研究, 平成 28～30 年度, 500 万円.

2) 科学研究費補助金

原田英美子, 永川栄泰, 櫻井昇. 水生植物の元素集積に影響する環境要因の解明および水圏からの金属回収法の開発. 基盤研究(C), 平成 27～29 年度, 140 万円.

飯村康夫. 土壌炭素の温暖化応答に及ぼすプライミング効果の定量的評価. 若手研究 (B), 平成 27～28 年度, 139 万円.

小泉博, 近藤美由紀, 藤嶽暢英, 吉竹晋平, 川東正幸, 飯村康夫, 加藤拓, 友常満利. バイオチャーを用いた森林における炭素隔離効果と生態系応答機構

の解明．基盤研究(A), 平成27～30年度, 80万円.
大塚俊之, 金城和俊, 飯村康夫．マングローブ林の
ミッシング炭素—分解呼吸による CO₂ は何処に
行く?—．挑戦的萌芽研究, 平成 27～28 年度,
74 万円.

入江俊一．プロテインキナーゼ A 触媒サブユニッ
ト遺伝子過剰発現によるリグニン分解系誘導の機
構．基盤研究(C), 平成 27～29 年度, 156 万円.

渡辺隆司, 入江俊一, 磯崎勝弘, 西村裕志, 片山正人.
リグニン認識機能を賦与した人工酵素触媒の合成
によるバイオマス分解新戦略．基盤研究(A), 平成
28～30 年度, 286 万円.

泉津弘佑．全ゲノム手法から見えてきた新規殺菌剤
作用点「タンパク質プレニル化機構」の解析．若
手研究(B), 平成 27～28 年度, 160 万円.

山本康貴, 近藤巧, 齋藤久光, 近藤功庸, 増田清敬.
農産物貿易自由化が環境に及ぼす影響の総合研
究：農産物貿易交渉力の強化に向けて．基盤研究
(A), 平成 26～29 年度, 40 万円.

小林久, 前田滋哉, 野田浩二, 皆川明子．量・質・
エネルギー・環境を考慮した水利用の評価手法と
合理的な水利調整の開発．基盤研究(B), 平成 26
～29 年度, 55 万円.

皆川明子．環境配慮型圃場整備を行った農業排水路
における魚類保全効果の検証．若手研究(B), 平成
28～30 年度, 180 万円.

清水顕史．貧栄養ストレス耐性イネ品種開発のため
のゲノム解析．基盤研究(C), 平成 26～28 年度,
90 万円.

鈴木一実, 泉津弘佑．植物病原菌類におけるホメ
オボックス遺伝子の機能解析．基盤研究(C), 平成
26～28 年度, 91 万円.

高倉耕一, 内貴章世．自家受粉依存を高める在来種:
外来種からの繁殖干渉と遺伝的多様性低下の検
証．基盤研究(C), 平成 25～28 年度, 143 万円.

沢田裕一, 西田隆義, 塚田森生, 高倉耕一．検疫害
虫ミバエ類の原産地における生態特性と種間関
係：繁殖過程と寄主選択からの解明．基盤研究
(B)(海外学術調査), 平成 25～29 年度, 377 万円.

上町達也．伊豆諸島のガクアジサイ遺伝資源からの
強光耐性系統の選抜並びに耐性機構の解明．基盤
研究(C) 平成 27～29 年度, 130 万円.

3) 政府および地方公共団体(関連法人を含む)から

の補助金

飯嶋盛雄, 西川芳昭, 檜山哲哉, 太田岳史, 泉泰弘,
山根浩, 阿部進, 藤岡悠一郎, 鈴木哲司,
L. Kanyomeka, O. Mwandemele, S. Awala, P.
Nanhapo, P. Ausiku, T. Lwiinga, P. Kompeli.
半乾燥地の水環境保全を目指した洪水—干ばつ対
応農法の提案．生物資源分野研究領域「生物資源
の持続可能な生産・利用に資する研究」, 地球規
模課題対応国際科学技術協力プログラム
(SATREPS), JICA および JST, 平成 24～28 年
度, 123.5 万円.

清水顕史．農林水産省・ゲノム情報を活用した農畜
産物の次世代生産基盤技術の開発プロジェクト
(LCT0005) イネのリン酸の効率的吸収に関わる
遺伝子の同定と DNA マーカーの開発．平成 25
～29 年度, 110 万円.

4) その他財団からの研究補助金

須戸幹．残留実態が明らかでない農薬成分の湖沼
(琵琶湖)での残留リスク評価および発生源と浄
水過程におけるリスク軽減対策．財団法人河川環
境管理財団, 平成 28 年度, 190 万円.

5) 受託研究の受け入れ

入江俊一．県内食用キノコの増収と品質保持及び機
能性成分増量技術等の開発．岐阜県森林研究所,
平成 28 年度, 42.4 万円.

上町達也, 畑直樹．近江の伝統野菜の機能性成分等
の分析と評価．滋賀県, 平成 28 年度, 83.2 万円.

10. 研究員の受入

平山琢二．寺本憲之(客員研究員)(2016 年 4 月 1
日～2017 年 3 月 31 日).

高倉耕一．畠佐代子(客員研究員)(2016 年 4 月 1
日～2017 年 3 月 31 日).

11. 特許, 実用新案, 品種登録, 意匠, その他著作権
に関わる事項

(なし)

12. 社会への貢献

1) 各種委員会

平山琢二．農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アド
バイザー(2016 年 4 月～2017 年 3 月).

入江俊一．滋賀バイオサロン，委員（2016年4月～2017年3月）．

入江俊一．日野町バイオマス検討会，委員，3回（2016年11月～2017年3月）．

入江俊一．大津板紙株式会社技術相談会，委員，2回（2016年11月～2017年3月）．

増田佳昭．農協職員資格認証試験委員会，委員長，近畿地区6府県農業協同組合中央会（2016年4月～2017年3月）．

増田佳昭．農協監査士試験委員会，委員，全国農業協同組合中央会（2016年4月～2017年3月）．

増田佳昭．京都市中央卸売市場第2市場運営協議会，委員，（2016年4月～2017年3月）．

増田佳昭．こだわり滋賀ネットワーク，幹事，（2016年4月～2017年3月）．

増田佳昭．滋賀県立大学生生活協同組合，副理事長，（2016年4月～2017年3月）．

皆川明子．米原市環境審議会，委員，1回（2016年4月～2017年3月）．

皆川明子．滋賀県農村振興交付金制度審議会，委員，2回（2016年4月～2017年3月）．

皆川明子．北陸農政局国営事業の環境に係る情報協議会，委員（2017年1月～2017年3月）．

皆川明子．滋賀県豊かな生きものを育む水田づくり懇話会，委員，1回（2016年4月～2017年3月）．

皆川明子．農林水産省農業水利施設生息環境向上及び特定外来生物被害対策技術評価・分析，委員，2回（2016年4月～2017年3月）．

皆川明子．近畿地方整備局豊岡国道事務所下鶴井地区圃場復元検討会，委員，2回（2016年4月～2017年3月）．

皆川明子．野洲川沿岸地区 地域用水対策協議会，委員，1回（2016年4月～2017年3月）．

皆川明子．兵庫県コウノトリ野生化対策懇話会，委員，1回（2016年8月～2017年3月）．

大久保卓也．滋賀県みずすまし専門部会，部会員（2017年2月～2017年3月）．

須戸幹．水産動植物登録保留基準設定検討会（環境省），委員，4回（2016年4月～2017年3月）．

須戸幹．PRTR 非点源排出量推計方法検討会（環境省），委員，2回（2016年4月～2017年3月）．

須戸幹．近畿農政局農業農村整備事業等事業評価技術検討委員会，委員，6回（2016年4月～2017年3月）．

須戸幹．赤野井湾流域協議会（滋賀県），委員，5回（2016年4月～2017年3月）．

須戸幹．リサイクル製品認定懇話会委員（滋賀県），委員，1回（2016年4月～2017年3月）．

須戸幹．大津市環境審議会（大津市），委員，1回（2016年4月～2017年3月）．

須戸幹．膳所高校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員，2回（2016年4月～2017年3月）．

須戸幹．青少年のための科学の祭典滋賀大会，副実行委員長，3回（2016年5月～2017年12月）．

須戸幹．残留農薬対策総合調査水質農薬残留調査（環境省），検討委員，2回（2016年10月～2017年3月）．

須戸幹．農薬の位置づけ等検討作業部会（環境省），委員，2回（2016年12月～2017年3月）．

鈴木一実．湖南省環境審議会，委員，1回（2016年4月～2017年3月）．

鈴木一実．滋賀県農林水産関係試験研究，外部評価委員，1回（2016年4月～2017年3月）．

2) 学会貢献

畑直樹．日本養液栽培研究会運営委員（2016年5月～2017年3月）．

飯村康夫．日本土壌肥料学会編集委員会常任委員（2016年4月～2017年3月）．

入江俊一．日本菌学会第60回大会実行委員（2016年4月～2016年9月）．

入江俊一．第16回糸状菌分子生物学コンファレンス実行委員（2016年4月～2017年11月）．

入江俊一．日本農芸化学会2017年度大会実行委員（2016年4月～2017年3月）．

岩間憲治．農業農村工学会京都支部代表幹事（2016年4月～2017年3月）．

岩間憲治．農業農村工学会土壌物理研究部会役員（2016年4月～2017年3月）．

泉泰弘．日本作物学会第242回講演会実行委員（2016年4月～2016年9月）．

泉泰弘．日本作物学会広報委員（2016年4月～2017年3月）．

泉泰弘．近畿作物・育種研究会シンポジウム委員（2016年4月～2017年3月）．

泉津弘佑．第16回糸状菌分子生物学コンファレンス実行委員（2016年4月～2016年11月）．

泉津弘佑．関西病虫害研究会編集委員 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

増田清敬．地域農林経済学会近畿支部理事 (2016 年 4 月～2016 年 10 月)．

増田清敬．地域農林経済学会編集担当常任理事 (2016 年 4 月～2016 年 10 月)．

増田清敬．地域農林経済学会常任編集委員 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

増田佳昭．地域農林経済学会会長 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

増田佳昭．近畿農業協同組合研究会代表者 (2016 年 5 月～2017 年 3 月)．

皆川明子．農業農村工学会学会誌企画・編集委員会委員 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

皆川明子．農業農村工学会研究委員会委員 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

大久保卓也．日本水環境学会関西支部副支部長 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

清水顕史．日本育種学会代議員 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

清水顕史．近畿作物育種研究会評議委員 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

須戸幹．日本水環境学会水環境学会関西支部理事 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

須戸幹．日本農薬学会農薬環境科学研究会委員 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

鈴木一実．関西病虫害研究会編集委員長 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

鈴木一実．関西病虫害研究会評議員 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

高倉耕一．関西病虫害研究会編集幹事 (2016 年 5 月～2017 年 3 月)．

高倉耕一．第 28 回日本環境動物昆虫学会大会実行委員 (2016 年 4 月～2016 年 11 月)．

高倉耕一．日本環境動物昆虫学会評議員 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

高倉耕一．日本環境動物昆虫学会理事 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

高倉耕一．日本環境動物昆虫学会編集幹事 (2016 年 4 月～2016 年 12 月)．

高倉耕一．日本環境動物昆虫学会編集委員長 (2017 年 1 月～2017 年 3 月)．

上町達也．園芸学会近畿支部評議員 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

上町達也．園芸学会英文誌 (Hort. J.) 編集委員 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

3) 国際貢献

飯村康夫．北極域研究推進プロジェクト (ArCS) によるカナダケベック州での現地調査 (2016 年 9 月 7 日～9 月 16 日)．

泉泰弘．SATREP (JICA-JST) 「半乾燥地の水環境保全を目指した洪水 - 干ばつ対応農法の提案」に係る調査研究 (ナミビア) , (2016 年 4 月 28 日～5 月 8 日, 11 月 24 日～12 月 6 日)．

4) その他

原田英美子．京大大学生態学研究センター協力研究員 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

畑直樹．大阪大学大学院工学研究科招へい研究員 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)．

大久保卓也．滋賀県琵琶湖環境科学研究センター客員研究員 (2016 年 5 月～2017 年 3 月)．

13. マスメディアとの対応

1) 新聞、雑誌等からの取材による記事

原田英美子．(2016) 水草の金属検出 挑戦だ．京都新聞, 2016 年 7 月 25 日．

2) TV, ラジオ番組への出演等

(なし)

3) その他

(なし)